

救恤は固より必要なるも、豫め遊民授産の法を講じ、執獨癡疾の外一人の貧民なきを期すべきことを諭し、次いで十一月十三日、従来貧民を收容する所を非人小屋というたが、その名稱妥當ならざるを以て、改めて撫育所といはしめ、明治元年春笠舞村から、新たに開拓した卯辰山の谿間に移した。

ヒネクヘ 日根九兵衛 一に日根野九兵衛に作る者は非であらう。父備中守は豊臣秀吉に仕へて三萬三千石を領し、九兵衛はその次男であつた。不破彦三に仕へ、天正十八年關東陣に従うたが、八王子の役に彦三は病んだから、代つてその兵を率ゐ、奮戦して命を殞した。義子に不破光昌がある。

ヒノカハ 肥ノ川 羽咋郡荻谷領熊野谷及び宿領三池谷から流出し、羽咋領で子浦川へ落合ふ。流程一〇許許。

ヒノキジユク 檜宿 白山舊市、瀬温泉からの登路中梯子坂の上で、もと老檜樹のあつた所である。越前名跡考に檜宿王子と題して、『これ(相撲馬場)より半里許登りて平かなる所あり。檜宿といふ。大木の老檜一株あり。権現の愛木といふ。枝密にして立のほりたる、たぐひなき檜の木なり。其もとに社有り。泰澄の作といふ古佛あり。彌陀か薬師か分明ならず。』と記する。

ヒノケンユウ 日野賢雄 能美郡小松眞宗本派西照寺十三代の住職。十五歳にして上洛し、高倉學寮に入り、香月院・圓乘院に宗學を學んで寮司に補せられた。明治十一年十月廿一日七十五歳を以て寂。法諡を津梁院と稱する。

ヒノゴテンシャ 日の御殿社 珠洲郡羽根

にあつた。能登誌に、『羽根より十町山中に日の御殿といふ社あり、昔は不動寺の山王權現每歲神與御幸ありし社なり。宮森廣く、梅・櫻の名木あり。』とある。

ヒノキングウ 檜新宮 白山の尾添口から登嶺する禪定道の傍に在つた。白山記に、『有一靈驗之社、號檜新宮。垂迹禪師權現、本地是地藏菩薩也。建立人乃美郡輕海郷住松谷住如是房ト云人奉崇之、後及二百歳矣。練行之輩來集此所、精進勤行於此寶社、夏衆勤行巨注、始自五月廿日比、終至于八月彼岸。三時誦法、自七月十七日同至于廿三日夜半、七日夜程、不斷花香燈、不斷法華觀音經、大般若經一部奉轉讀奉供養。舍利供一座、曼陀羅供地藏會、廿四日朝勤仕也。寶社二字。一字小白山大山御鉢御座。一字太男知禪師權現御鉢、金銅多御座。云々。堂六間二面一字。上房五間二面。政所五間。美乃蓋緊二間一字。世間具巨多也。堂舍利塔二基、舍利二粒、金迦羅勢多伽各一體奉安置之。』とある。檜新宮は元來檜の巨木あるに依つて名づけたもので、金子有斐の白山遊覽圖記に、もと天照大神を祀つたから日神宮であるとするのは誤であらう。檜新宮はまた檜神宮とも檜宿とも書き、その佛休は明治六年下山せしめた。

ヒノツメ 槌爪 石川郡村井の内の小字。

ヒノミコ 日ノ御子 石川郡林郷に屬する部落。邑名は白山の御子神なる火ノ御子神が鎮座するから起つたのである。大永神書に日御子宮とあるから、火御子を日御子と書いたことも古いことであらう。郷村名義抄に、日御子村の宮神日天子の由と書いたのは誤である。加越能舊跡緒に、『日御子領の内、六郎島と申所有。林六郎館跡之内。塚も有。』と記する。

ヒノミコシヤ 火ノ御子社 石川郡日ノ御子にある。白山記に白山宮の末社を載せた中に『火御子、寶殿拜殿』とあるのは是であらう。大永神書に白山下七社の第七に火御子があり、又『日御子宮、手力雄命、今火御子村之社是也。』とあるも同じい。式内等舊社記には、『火御子神社、林郷火御子鎮座。白山攝社也。』と記す。今日、御子神社がある。

ヒノミコナシ 日ノ御子梨 寶永十三年の調書に『梨、日御子村』とある。石川郡日御子村の梨が名産であつたと見える。

ヒノミコノミネ 火ノ御子峰 白山記に、太男知の麓なる磐石の上に泉水あることを述べた次に、『其東有二山。其色極赤。全不似余山。是號火御子峰。上道人進、云、扇御峰。』とあるが、火御子峰といふ名は今絶えて居る。今川以昌の白山遊記に、御手水鉢の東に鳥不止峰あることを擧げ、横山政和の和歌の端書に、『鳥とらまずといふ峰は、大汝嶽の御手水鉢といへる巖石の東にあり。燒山にて赤く兀げたり。』とあるを引けるものは、即ち古への火御子峰である。

ヒノミコノモリ 日ノ御子の森 石川郡日御子なる日御子社の前通りにつく松林を、日御子の森とも日御子の林ともいうた。往古は神人の邸地であつたといふ。元治元年春ここに硝石の製造所が起つて、多くの建築物が建てられた。

ヒノミヤシヤ 日野宮社 羽咋郡上田の南畑中にある岡山で、社殿はないが日野宮社と

唱へて尊崇せられてゐた。里俗に仁德天皇の皇子日野宮の御墓といふは信じ難いが、いづれ古墳であらう。

ヒノヤ 日ノ谷 江沼郡山中谷に屬する部落。白山宮莊嚴講中記録弘治元年の條に日屋城と書き、北陸七國志に檜屋と書いたも同地であり、延寶の地圖には火谷に作つてゐる。又加賀志徴には、梅城録に『直下里云々有祠名檜屋。』とあるから、もとは直下村の小名であつたらうと記してある。

ヒノヤガハ 日ノ谷川 ↓ミタニガハ 三谷川。

ヒノヤジヨウ 檜ノ屋城 江沼郡日ノ谷に在つた。北陸七國志に、永祿十一年十一月加越兩國の和睦した時、十二月一揆方の柏野・杉山、越前方の黒谷・檜屋・大聖寺の諸城を將軍から燒夷せしめたとある。

ヒノヤテンジンシヤ 檜ノ屋天神社 江沼郡日谷にあつた。吳庵の梅城録に、『賀州南郡地名直下里。溪山如畫圖。有神祠一號檜屋。乃北野君分化也。子族藤氏。以永和己未五月朔一生于斯里。既能命歸釋。少小離郷云々。』とある神祠は即ち是である。又式内等舊社記に、『檜屋天神社。檜屋村鎮座。祭神北野天神。今稱天滿天神。蓋曾宇直下檜屋三谷之惣社也。』とも見える。今檜屋即ち日谷には天神社といふものはない。直下に直下菅原神社があつて、明治の初檜屋社と稱したこともあるが、梅城録に檜屋天神社を直下里に在るとするは、檜屋が直下の小名であつたからであらうとする加賀志徴の説を探るべく、直下菅原神社は別のものである。

ヒノヲ 日野尾 鳳至郡櫛比庄に屬する部